

# 原発をなくす全国連絡会 ニュース



原発をなくす全国連絡会

〒113-8465東京都文京区湯島2-4-4 平和と労働センター7F

E-mail: [no-nukes@min-iren.gr.jp](mailto:no-nukes@min-iren.gr.jp)

HP: <https://www.no-genpatu.jp>



原発をなくす全国連絡会

## 原発ゼロ集会を開催しました

4年ぶりとなる原発集会を開催し、福島をはじめ全国各地から約500人が日比谷野外音楽堂に集まりました。国会議員あいさつでは共産党吉良よし子参議院議員が発言。また、社民党の福島みずほ党首と沖縄の風の伊波洋一参議院議員からメッセージが寄せられました。

メインスピーチで、元経産省官僚の古賀茂明さんは、12年前の原発事故のときには、国民の多くが「原発はこりこり、もういらぬ」と思ったはずだが、今は「仕方がない」と原発を再び受け入れつつある。原発反対派も世の中のムードに流されつつある。だからこそもう一度声を上げて、みんなの目を覚まさせようと話しました。福島から、いわき市民訴訟原告団団長の伊東達也さんが発言。いまだに多くの住民が故郷に戻れていない。訴訟で国の責任を認めさせることは、原発ゼロの大きな力になると訴えました。3/11に立ち上がる「原発をなくす群馬の会」の丹治杉江さんが発言。

自身の避難者としての経験を語り、福島を忘れないために会を立ち上げると決意を表明しました。そのほかにFoE Japanの吉田明子さんから連帯あいさつをいただきました。集会終了後は、銀座までパレードを行い、「原発推進反対」「みんなのちからで原発なくそう」とアピールしました。

沢山のご参加とカンパへのご協力をありがとうございました。集まったカンパはすべて集会の運営費に充てさせていただきます。(写真は民医連新聞提供)



## いわき市民訴訟高裁判決 報告集会in東京を開催

3月10日にいわき市民訴訟の控訴審判決が仙台高裁にてありました。この報告集会のサテライト会場を東京に設け、原告団・弁護団と各地の原発避難者訴訟の原告ら27人が集まりました。

第1部では、当訴訟の原告団・弁護団から裁判の経過が説明され、続いて、神奈川避難者訴訟の原告団長や東京避難者訴訟の原告らが発言しました。

仙台高裁判決の結果は、国の責任を認めない不当判決となりました。「長期評価」に基づき国は東電に津波対策をするよう規制権限を行使すべきだったとしながらも、その結果必ず重大事故を防げたとは断定できないとして国の責任は否定する内容で、2022年6月17日の最高裁判決に従うものでした。

この結果に、「絶対に許されない判決」「国への忬度だ」と参加者から怒りの声が上がりました。

原告団・弁護団は声明で、「福島原発事故に対する国の責任を明らかにする最高裁判決を勝ち取るために全力を尽くす」と決意を表明しました。

## 原発事故から12年 福島からのメッセージ

ふくしま復興共同センターがメッセージを発信しました。一部抜粋して掲載します。(全文は原発をなくす全国連絡会のHPに掲載)

福島県の発表だけでも2万7千人、事故当時の比較では8万人を超える福島県民が故郷に戻れていません。過酷な避難生活の中で亡くなった震災・原発事故関連死は2,355人と増え続けています。戻られたみなさんの生活も、さまざまな面で苦労が続いており、孤立と貧困がすすんでいます。また農林水産業、観光業など事故前の水準にはなかなか戻りません。

こうした状況にもかかわらず、岸田政権は原発の立て替えや60年を超える運転を可能にする原発推進の方針を決定しました。この方針は福島原発事故を終わったかのように扱い、事故の教訓や福島県民の苦しみを踏みにじるもので許されるものではありません。ただちに撤回することを求めるものです。

岸田政権は今年の春から夏に、ALPS処理水の海洋放出を強行しようとしています。「これまでの復興の努力が台無しになる」などの声が広がっています。多くの福島県民の反対や慎重対応を求める声を無視した海洋放出は中止すべきです。

「原発事故は2度と起こしてはいけない」—これが福島県民の共通の思いです。全国のみなさんと連帯し、福島県民の復興と原発ゼロをむすんだ運動にねばりつよくとりくむ決意を述べ、メッセージとします。